

佐久市佐久っと支援金事業 自己評価報告書

評価日 平成29年 3 月 31 日

団体名	高齢協おもしろ倶楽部		
事業名	行き場・居場所としての【ふゆあいサロン】の充実		
対象経費	300,000円	支援金額	100,000円

事業の目的・内容	目的
	内容

事業の活動実績	<p>1. お茶のみサロンは、平成25年度の延べ参加者は339人、26年度は469人に対し、平成27年度は748人と、1年目の2倍の参加者数となった。今年も新たなサロン「楽しく歌おう」が開始し、歌好きの高齢の人たちの気楽な歌い場になっている。また「かご編み」は仲間が新たな人を誘って毎回1日20人以上が参加し、年間293人と最も多くの人々の楽しみと交流の場になっている。百人一首サロンには隣接の高齢者施設「四季のベンチ」から、いつも3~4人が楽しみに参加され、またお正月には施設で利用者の皆さんと百人一首をやり、子供の参加もあり「こんなことは久しぶりだ」と楽しんで下さった。</p> <p>2. 脳イキキ楽習塾では、「終活」の学習に続いて【樹木葬】が見たいと、白馬村の貞麟寺をたずね、バスで20人の現地視察となった。花の咲く樹木に囲まれ美しく明るい墓地で、こんな形で眠るのもいいなと憧れる人や、お墓を考えて真剣に参加されたご夫婦もいた。</p> <p>3. 第3回高齢協講演会は、[なじみの居場所と安心な地域づくり]として、地域包括ケアシステムをめぐる基調講演のあと、4人のシンポジストから地域での居場所活動の実践を聞いた。子供食堂の実践、自分の居住地での【ニコニコカフェ】、上田での高齢者たちで「安心な地域づくりを考えよう」と活動する様子、カゴサロンの参加者の体験談などを聞いた。今年の参加者は地元で何かしたいと考えている人が多いらしく、アンケートでは自分の地元で始める上でタイムリーで参考になったなどと好評だった。まさに包括ケアシステムにむけ、地域のなかで助け合っ超高齢社会に備える対応が始まっているようである。</p> <p>4. 協同畑は、メンバー自身が腰痛や体力不足などで栽培量が減っているが、地域の方からのコメの提供などが時々あり、地域全体で支えあうしくみ作りが必要と思われる。</p>
---------	---



百人一首サロンを施設でやり、お年寄りとお孫さんと交流してのお正月遊びが楽しめた



見事なものねえ～布遊びクラブによる手作り雛人形展

事業の成果・効果	<p>1. 寄り合っ楽しむ場としてのサロンの役割は定着してきた。カゴ編みでは技術は修得出来ても色や形の新たな創作を求めて、毎回やってきて新しい人に教えながら、仲間との交流を楽しむ人が多い。麻雀・絵手紙や楽しく歌おうなどでは、例えば歌は何しろ気楽に歌が歌えるし、役員や当番などにならなくても良いのでここは来やすい、会費も200円くらいで安いしとやってくるようだ。本来の狙いはまさに気楽な居場所・行き場なので目的を達している。</p> <p>2. なかには自分の集落で頼まれたりして居住地活動としてカゴ編み世話人などを始めており、交流の輪を広げる役として効果が期待される。</p> <p>3. しかし、地域には極く初期段階の気掛かりな認知症予備軍傾向の人が増え、介護保険を使うほどではなく、無刺激で閉じこもりのまま過ごされ、集落内では気を使い手が出せず、車の運転も気掛かりでサロンも進めにくいなど、高齢地域の見えにくい対象者への介護予防において、本当の行き場となりえていない面がある。ボランティアで成り立つ自主的文化活動にも、「送迎つきのオレンジカフェ」などができるような公的支援があるといいと考える。</p> <p>4. 毎年の講演会では、激変の続く医療・介護保険制度への考え方の整理と、地域の役割を考えるチャンスとして好評を得ており、増加する認知症高齢者と高齢化の地域がどう共に歩むかが、問われた形となっている。「子供食堂」の報告では貧困との関係を言う前に、目の前の普通の子供が、苦手になっている知らない大人や子供と言葉を交わし、遊べる体験が貴重だとのこと。実際私もある回に参加したが、ジャガイモや玉ねぎにさわり、一緒にコロケを作るなどの体験さえが子供が初めてで、「皆とやると楽しい」「大勢で遊んで面白かった」などと、社会の中で子供が育成されることを実感でき、食育や子供の社会参加の場となっている様子がよく分かった。これも集落活動として材料持ち寄りが高齢者も子供も参加するしくみで定期化が可能ではないかと、次なる発展に期待している。</p> <p>5. 脳イキキ楽習塾が追求してきた「終活」での生き方・老い方では、心身の老いや墓を考えつつも最終的に残る「物の始末」「家の片付け」が悩みであり、ただ捨てるのでない循環する活かし方はないかが課題だと思われた。</p>
----------	---

事業は申請どおり実施できた	<p>①できた 2 概ねできた 3 あまりできなかった 4 ほとんどできなかった</p> <p>主な理由 (3、4と答えた場合のみ)</p>
事業の実施によって、期待した効果をあげることができた	<p>1 できた ②概ねできた 3 あまりできなかった 4 ほとんどできなかった</p> <p>主な理由 (3、4と答えた場合のみ)</p>
実施計画書と実績報告書の活動費の内訳について	<p>①ほとんど同じ 2 多少の変更があった 3 大幅に変更している</p> <p>主な理由 (2、3と答えた場合のみ)</p>
その他、評価すべき点等	<p>お茶のみサロンの種類は地域の希望で増えてきたもので、1回200円が参加する上で気軽であり、赤字にも超過すぎもせず、継続する資金として手ごろであり、よいと思われる。(プールされてお茶菓子・コピー・視察・講師謝礼・暖房含めた会場費などにあてられる)</p>

※ 自己評価の欄は、番号に○を付けてください。評価は、客観的自己診断です。

今後の事業展開	<p>高齢協の「一人ぼっちにならないしない、寝たきりにならないしない、元気なうちは社会参加でお役にたとう」の理念に沿って、地域で具体的にできることを組合員である住民の立場から考え、居場所・行き場作りのきっかけとして「佐久っと支援金」が利用できありがたかった。1年ごとに予算・計画・報告をきちんとまとめ提出する仕組みは、面倒であるが期限があり、けじめがつけられる点でこのしくみは自分たちには有効でよかった。</p> <p>3年間でほぼ自立して継続できると考え、より発展させて、地域のニーズに沿って自由に歩んでゆきたい。子供のこと、認知症予防、行方不明対策など地域には気掛かりな課題が多いので、今後も、多くの組織と連携して住民側からできることを探りたい。</p>
---------	---